



国立大学法人

帯広畜産大学の取り組み

平成27年5月

教育・研究のグローバル化を推進

第4回畜大ふれあいフェスティバルを開催

動物・食品検査診断センターいよいよ始動

本学眞方文絵さん(大学院畜産学研究科)が
日本学術振興会育志賞授賞

カルビー株式会社の協力によるバレイショ
加工利用実習を開始

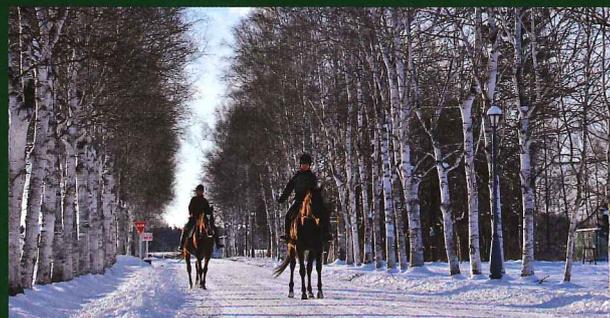
「帯広・十勝から花は咲く」の大合唱

「馬介在活動室」を設置

大学基金寄附者に感謝状を贈呈

平成26年度生産獣医療技術研修を開催

JICAと連携して南米パラグアイ国に学生を派遣



教育・研究のグローバル化を推進

11月12日農畜産学分野における世界水準の教育研究活動の展開に向けて、米国ウィスコンシン大学(本部:米国ウィスコンシン州マディソン市)と学術交流協定を締結し、翌13日にバレイショ育種・生産分野等に関するオープンセミナーを開催しました。また、同月には平成25年度に学術交流協定を締結している全米獣医学教育ランキング第1位の米国コーネル大学(本部:ニューヨーク州)獣医学部のアルフォンソ・トーレス副学部長が本学を訪れ、獣医学分野機能強化策の活動計画を明記した覚書を取り交わしました。さらに、平成27年4月国際共同研究推進施設「グローバルアグロメディシン研究センター」を設置し、今後、海外大学の教員招致による国際共同研究、学生交流等を実施し、教育・研究のグローバル化を推進していきます。



協定書を手を握手を交わす長澤学長とウィスコンシン大学フェリック国際教育プログラム部長(左から)



覚書を手を握手を交わす学長澤学長とアルフォンソ・トーレス副学部長(左から)

動物・食品検査診断センターいよいよ始動

動物・食品検査診断センターは、食中毒や食物アレルギーなど食品による健康被害や世界的規模の動物感染症の発生など食の安心安全に関する深刻な問題を解決するために平成26年4月に設置しました。本センターは研究部門と検査診断部門からなり、研究部門では微生物学及び毒性学の専門家が動物感染症並びに食品衛生に関する研究・教育活動を行っています。検査診断部門では上記専門家に原虫・寄生虫学の専門家並びに臨床検査技師も加わり、有償の検査診断業務を通じて社会に貢献するとともに、最先端機器を備えた検査室において学生、研究者、社会人の高度な実地教育と欧米の検査診断センターとの国際共同研究を行っています。



質量分析法による臨床検体からの迅速微生物同定

本学眞方文絵さん(大学院畜産学研究科)が日本学術振興会育志賞授賞

本学大学院畜産学研究科畜産衛生学専攻博士後期課程3年の眞方文絵(まがた ふみえ)さんが、3月4日日本学士院(東京・上野)で行われた日本学術振興会育志賞授賞式に出席しました。育志賞は、天皇陛下の御下賜金により、我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士課程学生を顕彰することを目的として、平成22年に創設されたものです。眞方さんは「乳牛の子宮内膜炎における感染細菌由来エンドトキシンによる卵巣機能障害の解明」に関する研究が高く評価され、157名の候補者の中から18名の1人として選ばれました。授賞式後の記念茶会では、両陛下が受賞者一人ひとりと和やかにご歓談されました。



受賞された眞方さん

「馬介在活動室」を設置

平成26年度に「馬介在活動室」を設置し、8月9日には、馬とのふれあいを通して、地域の子供や高齢者の心身の向上のために、2回目となる「馬フォーラム」を開催し、500名以上の来場者が馬とのふれあいを楽しみました。また、10月10日には、つくし幼稚園(北海道帯広市南町)において、本学の馬2頭を連れ、出張乗馬体験を開催しました。当日は、十勝晴れの中、園児約100人が交代で園庭を1周し、馬とのふれあいを楽しみました。そのほか、帯広市と連携し障がいを持つ方々を対象に乗馬体験を年6回開催するなど、今後も「馬に係る教育研究活動及び馬介在の社会貢献活動」を推進していきます。



馬フォーラムにて、ポニー幌馬車を楽しむ来場者

大学基金寄附者に感謝状を贈呈

平成26年度に大学基金へ寄附されている帯広信用金庫、十勝農業協同組合連合会、日本甜菜製糖株式会社、社会医療法人北斗、宮坂建設工業株式会社の5企業・団体等と三宅勝本学名誉教授に対し、感謝状を贈呈しました。この大学基金は、賛助会員(同窓生、地元企業・団体等、教職員)からの寄附により主に学生の奨学事業、地域貢献事業を支援しており、平成22年に財団法人帯広畜産大学後援会の財産と事業を引き継いで創設しました。大学基金設立から企業・団体等は100万円以上、個人は50万円以上の寄附をされた方に対し、感謝状を贈呈したもので、今後もこの基準に該当する団体等には感謝状を贈呈いたします。



三宅名誉教授の奥様、三宅名誉教授、長澤学長(左から)

第4回畜大ふれあいフェスティバルを開催

12月23日帯広駅前「とちプラザ」において、「第4回畜大ふれあいフェスティバル」を開催しました。このイベントは、本学をより身近なものへと感じていただくことを目的としており、今回は帯広市教育委員会、釧路工業高等専門学校に加え、カルビー(株)及びカルビーポテト(株)との共催とし、「ポテトチップス味付け体験」や「バレイショの栽培から加工まで」と題した基調講演を行うなど、「バレイショ」をテーマに開催しました。また、本学教員による体験講座(寄生虫観察や食味診断、骨格標本の組立など)のほか管内高校生研究成果発表会や各高校の特色を活かしたブース展示など、高校との交流の場としても、来場された方楽しんでいただけました。



「ポテトチップス味付け体験」の様子

体験講座「寄生虫を観察してみよう」の様子



カルビー株式会社との協力によるバレイショ加工利用実習を開始

10月8日本学キャンパス内にある農産加工実験棟の「ポテト工房」で、本学とカルビー(株)が締結した包括連携協定に基づく共同事業の一環として、食品科学ユニット3年生を対象としたバレイショ加工実習が始まり、カルビー(株)の社員からポテトチップスを製造するための本格的な技術やバレイショに関する基礎知識の指導を受けました。すでに敷島製パン(株)との包括連携協定に基づいて設置されている「とちか夢パン工房」では、小麦に関する生きた加工実習や研究が行われており、大企業との連携により、本学が目指す実践的で高度な専門職業人の育成、実学重視の教育のさらなる前進が期待されます。



カルビー社員から指導を受けて実習を行う学生

「帯広・十勝から花は咲く」の大合唱

3月15日本学講堂において、第2回目となる「帯広・十勝に花は咲く東日本大震災チャリティーコンサート」を開催しました。このコンサートは、十勝から東日本大震災被災地への支援の輪を大きく広げることを目的として、帯広畜産大学、十勝総合振興局、帯広市などの実行委員会(委員長:長澤秀行帯広畜産大学長)主催で実施され、稲田小学校、緑丘小学校合唱部による「大きな古時計」など元気な合唱に続いて、陸上自衛隊第5音楽隊が「ようかい体操第一」などを演奏し、来場した子供達が演奏に合わせて踊るなど会場を盛り上げ、最後に、来場者と出演者全員が復興を願って「花は咲く」を大合唱して幕を閉じました。



会場を沸かせた「ようかい体操第一」

平成26年度生産獣医療技術研修を開催

生産獣医療技術研修は、産業動物医療に従事する獣医師を対象に平成19年度から毎年開催されており、基礎コースは、8月4日～8月8日までの5日間、帯広畜産大学畜産フィールド科学センターにおいて、九州、四国、関東、東北、北海道など、まさに全国各地の産業動物臨床獣医師が集まり、飼料品質鑑定法、乳検データの見方と活用、代謝プロファイルテスト原理と解釈などの実践的技術を中心に、家畜飼養・栄養学、家畜管理学、酪農経営学などについて体系的に学習しました。また、8月25日～8月29日には、牛群検診経験を有する産業動物獣医師を対象として発展コースを開催するなど、本学は、獣医師の資質向上に貢献しています。



ポテコンディションスコアの判定実習

JICAと連携して南米パラグアイ国に学生を派遣

本学では、平成24年度から在学学生・卒業生をJICA青年海外協力隊の長期隊員・短期隊員として、南米パラグアイに派遣する「帯広-JICA協力隊連携事業」を実施しています。本事業は、派遣期間約2年の長期隊員と派遣期間約2ヶ月の短期隊員の組み合わせで、同国の小規模酪農家を対象にして、家畜の飼養管理、衛生管理、繁殖管理の技術向上のための支援及び経営指導を行い、同国の小規模酪農家の生計向上及び酪農発展のためと、獣医・農畜産分野における国際協力経験機会を通じたグローバル人材の育成を行うことを目的としています。これまでに長短期併せて20名の在学学生・卒業生が参加し、現在も4名がパラグアイ国にて活躍中です。



帰国報告会をする向井さん、服部さん、吉川さん(第3回短期学生ボランティア3名)

学長からのメッセージ

帯広畜産大学長 長澤 秀行



日本の食料生産の中心地として「生産から消費まで」一貫した環境が揃う十勝に位置する本学は、生命、食料、環境をテーマに、農学、畜産科学、獣医学に関する教育研究を推進する、我が国唯一の国立単科大学です。第二期中期目標計画に掲げたミッションは、「知の創造と実践によって実学の学風を発展させ、『食を支え、暮らしを守る』人材の育成を通じて、地域及び国際社会に貢献すること。」としています。

本学の人材育成目標は、食と農の大切さ、動植物の命の尊さを心得た素養を基礎として、いわゆる「Farm to Table」の幅広い領域を学際的視点で捉える能力と、あらゆる現場に適用できる知識・実践力を有するとともに、地球規模課題解決等の国際的視野を備えたグローバル人材を育成することです。

また、「食の安全確保」を担う専門家として問題解決型の高度な研究能力と幅広い見識を備えた人材を育成することが、本学のミッションであり社会的役割です。教育プログラムの実施に関しては、地域の試験研究機関や農業・食品あるいは動物関連企業、更に、動物衛生・食品安全を担う国際機関、開発途上国に対する国際協力機関等との連携によって、ミッションに掲げたグローバル人材の育成を目指します。

共同研究成果の新製法による「畜大パン」を発売



帯広畜産大学と敷島製パン株式会社(Pasco)は、共同研究成果である新しい湯種製法の特許を出願し、地元のベーカリーである「石窯パン工房ボンパン」と使用許諾契約を交わし、その製法を活用した「畜大パン」を平成26年9月16日に帯広畜産大学生協で発売しました。「畜大パン」は、毎週火曜日と金曜日の正午、帯広畜産大学生協のみで販売しています。

また、本学「かしわプラザ」内に、北海道浜中町で新規就農し、牧場とカフェを営んでいる本学同窓生が「Farm Designs 帯広畜産大学店」をオープンし、搾り立てミルクの美味しさを堪能できるドリンク(アイス、ホット)やケーキ、ソフトクリームなどを学生や近隣の方のために他のFarm Designs店舗より、お求めやすい価格で提供しています。

帯広畜産大学の概要

大学の沿革

昭和16年 4月	帯広高等獣医学校
昭和24年 5月	帯広畜産大学
平成16年 4月	国立大学法人帯広畜産大学 畜産学部 (共同獣医学課程、畜産科学課程) 大学院畜産学研究科 (修士課程、博士前期・後期課程)

役員・教職員数

※平成27年5月1日現在、()は非常勤で内数

役員	6	(3)
教員	134	
事務・技術等職員	92	
合計	232	(3)

学生数

※平成27年5月1日現在

	男	女	計
学部	536	628	1,164
大学院 (修士・博士前期)	58	48	106
(博士後期)	18	8	26
別科	30	11	41
合計	642	695	1,337

留学生数

※平成27年5月1日現在

	男	女	計
19カ国から	38	29	67

帯広畜産大学広報室

〒080-8555 北海道帯広市稲田町西2線11番地 TEL. (0155) 49-5228 / FAX. (0155) 49-5229

mail kouhou@obihiro.ac.jp